

2014年8月から1年間、私は国際赤十字連盟のコレラ衛生促進事業管理者として、ハイチ共和国で活動しました。ハイチでは、2010年1月に発生した大地震で20万人以上が亡くなり、また追い打ちをかけるように、同年10月にはコレラがハイチ全土に広がりました。現在、爆発的な感染は収まったものの、コレラの脅威は、依然、残っています。

ハイチ政府が、隣国のドミニカ共和国政府と共同で2012年に発出した10年間のコレラ撲滅計画に応える形で、国際赤十字連盟も同国でのコレラ対応計画を打ち出し、2014年7月に私が担当したコレラ衛生促進事業が生まれました。コレラの脅威に対抗するには、予防と発生時の即応が欠かせません。この事業は、予防対策を担っており、対象地域のボランティアに対して水衛生に関するトレーニングを実施し、彼らが自分の村で啓発活動を行います。

事業地の中には車で川を渡ったり、車でも進むことのできない山道を徒歩やロバに乗って4~5時間かけて着く村もありました。アクセスの悪さから、これまでNGOの支援を受けたことのない村がほとんどであったため、事業地の人たちは、私たちを歓迎してくれました。

ボランティアの人たちは、トレーニングに真剣に参加し、啓発活動においては回数を重ねるたびにロールプレイや進行のスキルが上達しています。

事業の立ち上げかつ責任者という初めての任務は、難しいことの連続でした。事務所の借り上げ、スタッフの新規雇用、調査、申請書や予算改定、関係機関との打ち合わせ等と、赴任から半年間は首都にある連盟事務所本部にこもっての業務が続きました。その間も、経験豊富なスタッフが事業地で調整にあたってくれ、実際の活動が始まってからは、スムーズとはいかないものの、少しずつ進んでいきました。能力と士気の高いスタッフと共に仕事するのは、大変刺激的でした。

事業が終了するまでに地元で活動が引き継がれるよう、今の地道な活動が最後まで続くことを期待しています。



トレーニングを真剣に受ける地域ボランティア



ボランティアによる村人たちへの指導